



POLY CRAFT

コンセプト

POLY CRAFT

ニューノーマルや持続可能な社会のための意識や行動と普段の何気ない日常をつなぐ、ささやかでちょっと気になるプロダクトを提案します。

POLY CRAFT は、「重合体」や「複数の」といった意味を持つ POLY と手の込んだ作り込まれたものを意味する CRAFT の組み合わせです。多面的なものの見方や社会課題を物から発信し、考えるきっかけとなることを願っています。



Monyamo



Sakiko Tomizawa.

「誰ひとり取り残さない社会」を拡張した「誰一匹も取り残さない社会」の愛猫家と猫のためのアイテム。災害などの「もしも」の時にスムーズに避難できるよう普段から猫ちゃんに慣れてもらえ、インテリアにもなじむ、猫のハウス兼キャリーケースです。普段使いしておくことで、猫も慣れ、人間も慌てることなく、いざという時に一緒に避難できます。また、キャリーケース脇に猫用の、防災用品を入れることができます。人間だけでなく猫たちとの「もしも」の時を一緒に考えるきっかけを作ります。

個人的にはやわらかいもののデザインは初めてでしたが、手書きでの指示書や希望の生地を制作会社に提示しながらやり取りをしました。中国での試作を3回繰り返し、理想形に近づけました。自宅での実証実験では設置すぐに猫が気に入ってハウスに入ってくれました。避難場所での他の動物たちとの慣れない環境でもこれがあれば猫も人間も安心です。



※動物の安全に配慮しながら造花や植物を用いて撮影しています。





Lunch Tray

 Naoya Shibata

仕事とランチを簡単にスイッチするランチトレイです。在宅勤務が進んだ世の中で、家に仕事専用スペースがなく、小さなダイニングテーブルなどを仕事と食事で共用している在宅ワーカーに向けて考えました。テーブルのノートPCを片付けなくてもトレイを上から被せるだけで仕事からお昼休憩に手軽に切り替えることができます。形状は使うことで休憩につながるような有機的なやわらかい曲面を目指しました。普段の業務はUIデザインなので3D CADの操作は慣れていませんでしたが、自分にとっても解決したい課題であったため、良いものにしようと提案と修正を繰り返して今の形を作り上げました。

材質も金属やプラスチックではなく、リラックスできて、かつPCにもしものことがないように丈夫な木材が必要でした。だから材木専門店で100種類以上のサンプルを確認して、堅く目の詰まったナラを選定しました。デザインを歩留まりや木の強度を考慮しつつ完璧に再現してくれた下町の木工所にも感謝します。この提案は、広い家に引っ越したり、新たなデスクを用意したりすることなく今ある住環境を最大限に活かすことができます。働き方が変化したとしてもエネルギーや所有物を最小限に抑えられ、持続可能な社会につながっていくのではないのでしょうか。





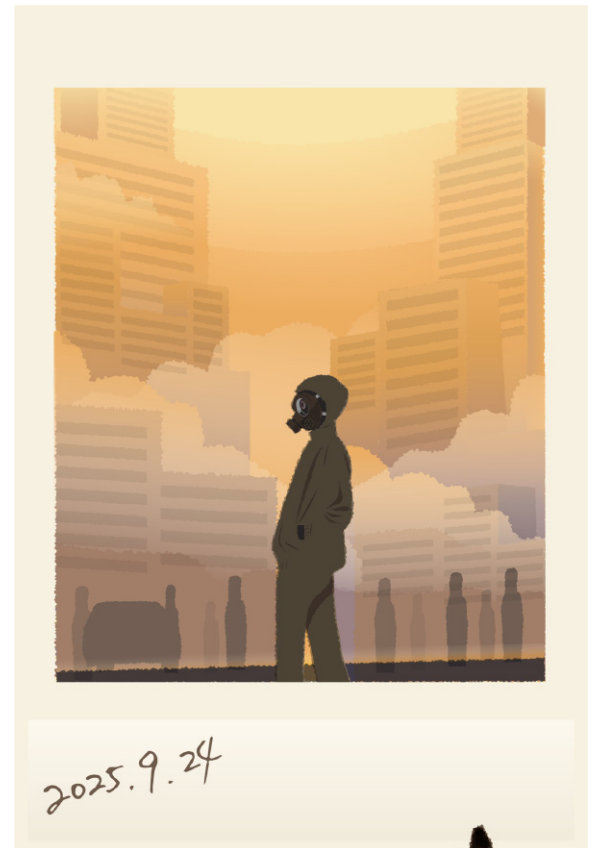
Crossed the boundary



環境に不可逆的な影響が出る、超えてはならない9つの閾値を総称して「プラネタリーバウンダリー」と呼びます。SDG'sにも採用されたこの考え方を、このシリーズでは環境が回復できるボーダーを超えてしまった世界をイラストで表現し、Tシャツにすることで、とっつきにくい環境問題について会話するきっかけにしたいと考えました。イラストはノスタルジックな雰囲気未来描写に現実感を感じさせつつ、堅く難しい環境問題をわかりやすく伝えるため、ポップな表現にしました。メディアとしてTシャツを使うのはありきたり、という意見もありましたが、環境問題が物質として存在することやファッションで自己表現を行うことは、その問題を実体として感じてもらうことに寄与できるのではと思っています。

ストーリー

ここは2025年の東京。自動車や飛行機、工場からの廃棄などによりPM2.5などの大気汚染物質が放出されることで、街中は視界が悪く、呼吸器系の病気が蔓延しました。また、オゾン層が破壊されることで太陽の光を直接体に浴びることは危険とされるようになりました。それらの理由から、人々の服装に対する意識が変化。ガスマスクとフード付き上下つなぎが基本となり、まず身を守ることが必要となりました。服装の多様性は失われてしまったのです。



大気汚染は過去数年の排気が大きな要因となっています。そのため、いつでもこの状況が起きる可能性があります。空気のような、無限に、自由に使えるように思えるものでも危機にさらされています。



Mountain View Desk



自然を身近に感じたい人に贈る、いつも山が見えるワークデスクです。コロナ禍において在宅での仕事が増え外出が減り、巣ごもり生活に息苦しさを感ずるころに、山が毎日見られて、手に届くといい、環境保全への意識づけにもならないかと考え、天板に山の彫刻のある机を作りました。山の形状はこれまで登った山を頭の中で再構築しました。形を完全に制御しなかったためサーフェスマデラーで直観的に面を一つ一つ作成し、そのデータをソリッドモデラーの3D CADに移行し図面にしました。

複雑な形状を作れる5軸NCルーターのある工場を探すことにも苦労しました。希少な工作機械の上、製作物が単品で造形が困難なためです。また、当初は国産

間伐材を天板の材に考えたのですが、間伐材は流通が少ないため、国産杉材で試し、最後の試作では外国産のオーク材になりました。調達が容易で高価すぎず堅いため、加工性、品質感が高いからです。環境問題を考慮し最初は間伐材を試しましたが、試作検討をする上で最後は長く使える頑丈な机を作ることができました。





Alcohol Lump



Shuich Takeda

コロナ禍を契機に、人々の衛生観念は大きく変化しました。アルコールボトルは一時的な存在ではなく、日常の風景となっています。しかし、その置かれ方は今もまだ、その場しのぎの印象がぬぐえません。今後、アルコールボトルと空間の恒久的な関係に配慮したデザインが必要になると考えました。

アルコールボトルが、ぼんやり光る。
確かに存在するが、緊急時の物々しさはない。

なにげない日常を過ごすために、感染症とうまく折り合いをつけていく。この新しい習慣を持続するための佇まいをデザインしました。

一般的な白いアルコールボトルが使われることを想定し、ボトルが倒れないように固定できます。交換もしやすいホルダーと台の脚を同じ太さのスチールで一体的に作りしました。建築環境へのなじみを考えその部材をできるだけ目立たないよう細く薄くしつつも、転倒しないように形状や厚みのバランスをとるのに苦労しました。少し暗めの場所に置かれると照明効果が引き立ち、上品でクリーンなエントランスになると思います。

